

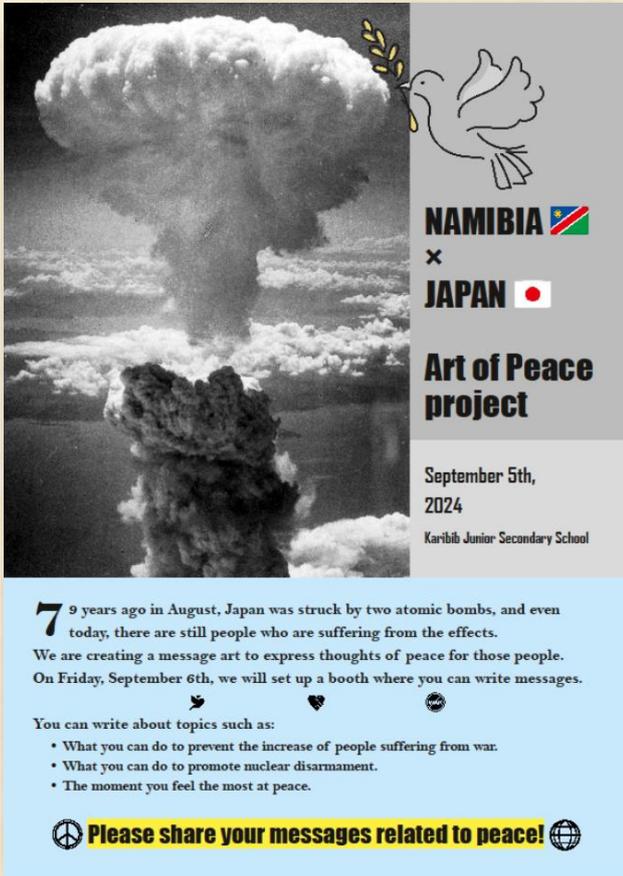


KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2025 年 3 月 3 日 Vol. 25



本日は、[Vol. 24](#)に記載した日本食販売と同日開催の「日ナ平和展」(図1)について紹介します。この企画の趣旨は、第二次世界大戦中に日本が二発の原子爆弾を投下されたという史実を知らないナミビア人に、史実とともに核兵器使用の凄惨さについても知ってもらい、自身の平和観を見つめ直すきっかけを作ってもらいたいということです。というのも、ナミビア人にとって自動車やアニメといった日本を代表する技術や文化は生活に浸透している分広く知れ渡っていますが、上述したような史実は歴史の教科書に小さく紹介されている程度でそこまで深くは触れられず、結果各クラスで知っている者も 10 人未満だったということがありました。そのため、日本の負の歴史についても知ってもらい、その上で普段あまり考えない「平和」とは何か?ということについて考えてみて欲しいと思ったことがこの企画を始めようと思ったきっかけの一つです。

図1:「日ナ平和展」の校内広告

また、自身は長崎県出身で、広島県にも6年住んでいたことがあり、もともと平和教育、特に原爆関連のことには強く関心がありました。そのため、そんな私にとって毎年8月6日と9日の原爆投下の時刻に合わせて鳴るサイレンには少し重い意味合いがありました。しかし、神奈川県で教員をしていた際、それらの日時にサイレンが鳴らないこと、また原爆投下の日を答えられない生徒が多かったことに驚きを隠せず、同時にこの史実が時代と共に忘れ去られてしまうのではないかという危機感を覚えました。その後 JICA 海外協力隊として派遣が決まり、渡航前の表敬訪問の一環として長崎市の原爆資料館を訪問し、被ばく者のお話を伺いました。その中で、同じよう



写真1:ポスター展示の様子1

に危機感を覚えられていたこと、だからこそ機会があればそのような場を提供して欲しいというお話があったことからナミビアでも何かしらの平和教育ができればと具体的に考え始めました。そのような渡航前の背景もこの企画を実施しようと思ったきっかけになります。

ただこの企画、元々はどなたかを招待して行う大規模なものを考えていましたが諸問題が重なり、一時は中止することまで考えました。しかし、せっかくの一生に一回あるかないかの海外での活動だからと一から計画を練り直し、結果的に写真1のようにポスターを掲示し、皆から平和に関するメッセージを集め、アートのようにした後に日本に送付する案に落ち着きました。当日の様子は下の写真の通りです。



写真2：ポスター展示の様子2



写真3：ポスター展示の様子3

校内での展示前に、戦時中の日本や原子爆弾の様子を知ってもらうために、授業にポスターを持ち出し説明しました。その時に最も印象的だったことが、普段の授業では脱走したり、私語をしたりするようなあまり褒められないような素行の生徒でも、原子爆弾の実際の大きさに驚いたり、投下後の広島・長崎の街の変貌ぶりに驚いたりとその時は説明を懸命に聞いていたことです。中でも特に強烈な印象を与えたものが写真2の手前のポスターにある被ばく者の被害・後遺症の様子を写したものです。この凄惨な姿を目の前に、目を覆っている者も数名いました。

また紹介だけでなく、これを見聞きして感じたこと・考えたことを言葉にしてもらい、現在も後遺症で苦しんでいらっしゃる方々へのメッセージや平和への願いをアートとしてまとめ日本に送ることで、同年代の日本人の学生の考えと似通った部分が多いのか、はたまた全く異なる考えなのかを日本の高校生にも知ってもらうため、メッセージ記入と貼付のブースを設けました。デザインは日本人が一目見て分かるように、手書きのナミビアの国旗上にナミビアの国土をかたどった用紙を貼っていきま

結果は、校内で200枚近くのメッセージが集まりました（写真4）。



写真4：校内完成分のメッセージアート

「平和」という抽象的な内容を取り扱ったため説明時も苦勞し、なかなか関心を集められないかなと思っていた折、全校生徒とまではいかないものの予想を超える数が集まり、日本の負の歴史・核兵器使用の凄惨さについて少し知ってもらえたこと、日常会話では知ることのできない生徒の考え方に触れられたことから、本当にやってよかったと思えました。



また他のメッセージについては後日、別の町で Expo (博覧会) があり、そこで日本文化を紹介しながらメッセージの記入についてもご協力をお願いしました (写真5)。結果、実に多くの方に協力いただき、用意したすべてのメッセージカードに書いてもらえました。Expo 会場では、配属先より原爆投下について知っていた方が多い印象で、一方そうでない方も簡単な説明ではありましたが話を聞いてくださり、ほぼ全員がメッセージの記入を快諾してくださいました。そして、完成したメッセージは数名の生徒の写真とともに、普段交流のある

写真5：別の町で行った Expo にて
山形県立米沢興譲館高等学校に送付し、装飾や和訳等の作業を手伝ってもらい (写真6)、



写真6：興譲館高校の生徒による和訳や装飾等の作業風景 ↖ ↑ →

最終的には、JICA デスク長崎主催のイベントで、2025年2月17日～21日の間、長崎県庁に展示していただきました (写真7)。

(長崎県出身 JICA海外協力隊員による平和の取り組みをご紹介します)

長崎から世界へ

～JICA海外協力隊がつなぐ平和～

ナミビアから長崎へ届いた
平和のメッセージアート

【期 間】2025年2月17日 (月)～2月21日 (金)
【会 場】長崎県庁 1階 イベントエリア
【展示時間】9:00～21:00 (長崎県庁 閉館時間内)
(※2/17は13:00から、2/21は17:00までの展示となります)

【主催】NCAデスク長崎 (長崎センター) 【後援】長崎県
【お問い合わせ先】NCAデスク長崎 西口 TEL: 090-7167-4232





写真7：長崎県庁での展示の様子

冒頭で記載した通り、ここに至るまでには紆余曲折があり、結果的には日本食販売と同時並行で行う小規模なものとなりましたが、それでもご関係の皆さまのご協力なしには決して成しえませんでした。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。また、1年越しの企画を配属先の人と何とか形にすることができ、出身県での展示の様子を伺った際は感無量でした。これを機に少しでも多くの方に日本の戦後までの歴史についても知っていただき、「平和」とは何かについて考える一つのきっかけが広がればよいなと思いました。

こちらの様子は「世界日記」にも執筆しています。是非ご覧ください♪ → [世界日記#17](#)

次回：数学オリンピック予選の様子を紹介します！